

一本の線がぐるり輪を結ぶ中に、反復、逸脱…現象のある僕のドローイングに何を見るのか、アニメーションで動かしてみてもと勧めてくれる人が時折ある。画が動くまでの工程を想うと眩むが、アニメーションは連続する画の残像効果に動きを錯覚する、言ってみれば静止画の連続だ。なんのことはない、その人は描き連ねられた作品の並びに動きを見たのだろうし、僕は僕で今までもこれからも描き続けることの奈落に眩んだのに違いない。

繰られた画は観者の脳に補正され、滑らかに動き出す。そうであればアニメーションを構成する画と画の間には、誰とも共有し得ないその人のみが目にした像があるはずだ。スローモーションで再生してみよう、コマとコマは離れ、間を繋ぐ闇が大きくなる。全ての連続の間隙には暗闇が挟み込まれ、そこに脳は辻褃合わせの景色を描く。裏と表、右と左、前と後、昨日と明日、過去と未来…それらを繋ぐのは、目にした者それぞれ独自の変容。

重ねられた像と像の間、今ここにある現在は、あなたにしか立てない視座だ。

2012年12月

小川敦生

BASE GALLERY / MATRIX JAPAN S.A.  
103-0025  
東京都中央区日本橋茅場町1-1-6  
小浦第一ビル1F  
tel : 03 5623 6655  
fax : 03 5623 6656  
www.basegallery.com